

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームあけぼのⅢ(Aユニット)	評価実施年月日	
評価実施構成員氏名	・山田 忠幸 ・石川 重正 ・岩田 修一 ・舘入 美弥子 ・高柳 美千子	木戸場 幸央 錦織 和加子 東海林 照子	
記録者氏名	高島 康子	記録年月日	

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「地域性を生かし」との言葉が文頭を飾る理念をつくりホーム内に表示、職員が日常的に確認してケアを行っている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>玄関やホールの見えやすい位置に理念を掲示して全職員が確認しやすいようにしている 名札の裏に理念を書いた紙を入れて常に確認できるようにしている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>玄関から入った時にすぐに目に付き易い場所に理念を掲示してご家族や地域の方々に少しでも当ホームの理念を知っていただくように努力している、またご家族には契約時にも説明している。</p>	<p>○ あげぼの通信等を利用して当ホームの理念をご家族や地域の方々に理解してもらう努力をする。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>利用者の方々と玄関外で休憩したり散歩したりする時に挨拶をお互いに交わしている。ゴミ出し時に声をかけたり、隣の商店を利用した時も会話をしてコミュニケーションをはかっている。</p>	<p>○ 近隣の方々が、気軽に声をかけてくれたり遊びに来てくれるような雰囲気作りに努めたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入して地域の回覧板に当ホームの紹介を入れさせてもらったり、地域の一斉清掃には利用者の方々と参加したりしている。</p>	
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の高齢者の方々に散歩時などに挨拶したり、声をかけたりしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価表を職員全員に渡し各職員自ら自己評価を記入、その後管理者などと話し合い、指摘された事は改善している。	○	評価結果をもとに管理者をはじめ全スタッフと話し合いを持ち、自己評価、他者評価共に改善に取り組みたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議はまだ行われていないが、現在準備中である。	○	運営推進会議を通じて少しでも当ホームが地域に密着できるような話し合いをしていきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	グループホームから本部へ確認を取り、本部が市の担当者と連携を取っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在、成年後見制度を利用している入居者がいる。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	ホーム内で虐待などがおきないようにスタッフ間でのコミュニケーションをはかり、利用者の方々の身体になにか異常があれば速やかに管理者に報告が行く体制ができています。	○	職員のストレスに対するケアができるような体制を作っていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者様、ご家族様が十分に納得していただけるよう説明して契約を結んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の方々からの意見や不満、苦情は毎日の申し送りや毎月のユニット会議などを利用して速やかに改善するよう努力している。</p>	○	<p>ご自分の思いをうまく伝えられない入居者には言葉や態度、表情などからうまく察する努力をしている。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>利用者の日常生活は担当職員が月に一度回ご家族あての手紙により報告している、また特に体調などに変化があった場合は電話により密にご家族と連絡を取り合っている。</p>	○	<p>定期的に発行している「あけぼの通信」の内容をさらにわかり易く、読み易くして、ご家族の理解を深める。</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族からの意見や苦情はスタッフ、管理者から本部に伝えられて、できる事は速やかに改善できない事に関しても、ご家族にその事情を説明するなどし敏速に対応する。</p>	○	<p>ご家族の方々が来所された時も話がしやすい雰囲気をつくるなどして意見を聞いていく、運営推進会議などを通じてご家族の意見を聞いていく。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月のユニット会議を通じて職員の意見を聞き検討している。</p>	○	<p>ユニット会議以外にも職員の意見を聞く機会を作って意思の統一をはかるように努めたい。</p>
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者の方々の体調や通院などにより必要な時間帯に職員の人数が確保できるように検討して勤務調整をおこなっている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>日常から職員の意見や不満などを聞き改善できる点は改善し職場環境を少しでも良くして離職を最小限に抑える努力をする。職員が代わる場合も利用者の方々に挨拶をして、利用者の方々が受けるダメージを少しでも軽減するよう努める。</p>	○	<p>移動、離職がやむをえない場合は利用者の対応引継ぎを徹底しておこなっていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>教育委員会があり、職員のレベルアップのための研修会への参加も行われている。(北海道認知症介護実践者研修、スタッフ研修会、グループホームを対象とした認知症介護研修会など) 教育委員会による認知症介護に関する勉強会の実施、全職員の各種研修会への参加を予定している。</p>	○	研修参加者は、研修報告書を書きスタッフへの伝達を行っている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>当社にある4つのグループホームにおいて、各委員会や勉強会を通じて質の向上に向けた取り組みを実施している。また、講習会や研修会への参加を積極的に行い、同業者との交流の機会を持っている。</p>	○	他グループホームの見学やスタッフの交流を実施して行きたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>勤務外における親睦会(飲み会)等により愚痴をこぼす機会を設け、ストレス緩和に努めている。また、アドバイス等により、自らが解決する力を得るよう支援している。</p>	○	職員の不安や悩みなど、気軽に話せる関係・環境を築いていく。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>資格に応じて手当などがある。さらに人事考課を実施している。</p>	○	事業部長が定期的に訪問し、業務の状況を把握している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前にご本人の住居・病院を訪問し、生い立ち・生活の様子・意向・出来ること・出来ないこと・どのように暮らしたいかなど傾聴し、グループホームを見学して頂き、納得後入居していただいている。</p>	○	現在は行われていないが、見学だけではなく体験入居が出来るよう検討して行きたい。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>住居・病院を訪問し、ご本人やご家族の状況・思いを聞き、ご家族から生い立ち・性格・病歴・不安なこと・どのように生活していただきたいかなど傾聴する機会を設けている。</p>	○	ご家族の在宅介護で苦勞してきたことや思いなど、傾聴している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族にとって最善の環境、サービスをご本人・ご家族の立場に立って対応している。	○	まず、どのようなサービスが必要なのか、ご家族より様々な情報を頂き、他のケアマネージャーとも検討するよう努めていきたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に見学に来ていただき、職員や他入居者とお茶を飲みながらお話していただき、馴染むことが出来るよう工夫している。	○	自宅を訪問し、自宅での普段の生活の様子や環境を確認し、なじみの関係が築けるよう努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	同じ目線に立ち、本人の思いやお話を傾聴したり、入居者様同士が日々楽しく過ごしていただけるよう関わり、常に尊敬の気持ちを忘れず、感謝の声掛けを持ち、互いに支えあう関係が築かれている。	○	あまり堅苦しい雰囲気にならず、共に生活しているという視点で生活が出来るよう努めている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の日々の生活や身体状況を月に一度手紙で家族に連絡している。レク活動にも参加していただき、喜怒哀楽を共にしている。外出・外泊の機会を持つことで、家族と一緒に過ごす時間を持っていただき、その経過を家族と情報交換している。	○	ご家族との外出や外泊の機会、ご家族のレク活動への参加が増えるよう工夫していきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	近況報告として月に一度手紙を送付している。来所時には本人の略歴など細かい部分も話していただき、よりよいケアを目指して支援している。	○	外出・外泊・行事への参加を促し、より多くの時間をご家族と過ごせるよう支援していきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族や友人の方により多く訪問していただくよう伝えている。ご家族と一緒に買い物や食事などに出かけている。	○	お孫さんなども面会に来ている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様の人間関係を全職員が把握し、共通の活動などを提供しコミュニケーションを促している。入居者様が仲良く、また支え合うことができるよう職員が調整役となり入居者様同士の関係がスムーズに行くよう働きかけている。	○	入居者が孤立しないようスタッフも見守り、関係が円滑になるよう対応している。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在、サービス利用の終了者はいない。	○	今後、サービス利用の終了者があった場合、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、継続的なつきあいを大切にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様に対して、日々の生活への意向や食事への希望などを聞き、少しでも自宅での生活に近付けるように努めています。困難な場合でもご家族や職員と話し合い、本人の立場に立ち、出来るだけ本人の意向に沿うよう対応している。	○	入居者が職員に何でも話せる雰囲気を作ること。また、表情や動作から把握するよう努めている。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人の生活暦・馴染みの暮らし方・趣味・好きな事などご家族様に情報を聞き、さらに入居者様の日々の会話の中からも情報の把握に努めている。	○	入居後もご家族からこれまでの生活暦や自宅での環境などについて聞くようにしている。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	各担当者が入居者のアセスメントを行い、スタッフ会議において情報を共有している。一日の生活の様子や心身の状態は毎日全職員に申し送りし伝えている。	○	入居者の心身の状態をみながら、個々の能力が発揮できるよう支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族・各担当者から情報収集し、月一回のスタッフ会議の中で介護計画の検討を行い、介護計画の作成に活かしている。	○	各担当者が介護計画のモニタリングを行い、本人・家族の意向を含め、カンファレンスの中で今後の課題やサービス内容について検討している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月ごとの介護計画の見直し・評価を行い、入院などや変化が生じたときは、再検討・見直しを行い、新たな計画に変更している。	○	入居者の希望や家族からの意見・要望があった時は介護計画の見直しを行っている。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	ケアプランに基づいて、日々の様子・身体状況・言動など個別記録(生活シート)に記入し、スタッフ会議において情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。	○	バイタル・排泄状態・食事量・飲水量・服薬などの身体状況及び日々の様子や言動なども個別記録(生活シート)に記入し、実践に活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	当社にある4つのグループホームの共同行事や母体である病院の行事に参加したり、家族を交えた交流が図られている。	○	本人や家族の状況に応じた柔軟な対応で支援していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	隣接する保育園や商店と関わりを持ち、理解と協力を働きかけ、ホームの行事支援を得ると共に、保育園の行事に招かれ参加している。また、玄関先のベンチで地域住民と雑談等、交流も図っている。	○	各種行事において、近隣住民やボランティアへの協力を呼びかけていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域の訪問看護・訪問リハビリ・訪問美容サービスを利用している。	○	本人の意向を重視し、必要に応じて他のサービスを利用できるよう支援していきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターの開催する勉強会に参加し、ケアの取り組みや地域の情報などアドバイスをいただいている。	○	地域包括センターと、地域の情報交換をもっと強化していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	二週間に一度主治医による訪問診療と毎週看護職による健康チェックがあり、その都度相談しながら、日常の健康管理に努めている。	○	管理者が看護師経験者であり、主治医との連携が密にとれている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	医師との関係を築きながら支援をおこなっている。何か問題がある時も医師との連携を持ち指示や助言をもらっている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	管理者が看護師経験者であり利用者の方々の日常の体調変化に関してつねに連絡、相談ができています。かかりつけ医の看護師による週一回の健康チェックが行われている。	○	看護師経験者が常勤されているのでご入居者の状態変化に応じた支援をしている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合、病院を訪問したり、医師や看護師と情報交換を行っている。ご家族の方々とも連絡を取り合いできるだけ早く退院でき、退院後の対応もしっかりとできるように全職員ともその情報を共有している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	症状によりご家族の希望を考慮し医師、ご家族様、職員などで話し合いをして方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	出来るだけホームで共に過ごしいただくよう備えは出来ている。医師との話し合いにて出来る事と出来ない事などをご家族、スタッフと相談していきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人の意見、家族の意見を十分に聞き入れ移り住む居宅の情報を収集し、明るいイメージを持てるようにお話ししている。</p>	○	<p>住み替え希望者については、アセスメント、ケアプラン、日々の生活情報等を事務所に渡し情報交換していき、同じ介護を受けられるように対応した。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者様一人一人を長い人生経験を持った方として、言葉かけや対応を心がけている。個人情報 は人目に触れないように管理している。</p>	○	<p>スタッフは入居者のプライバシーに関する ことを、他者に他言しないことを厳守している。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>難聴の人にはゆっくりと話している。外出、着替えなど入居者様一人一人の希望で、選んでもらえるような場面や対応を心がけている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者様のその日の状態やペースや希望などにあわせて柔軟に対応している。起床や、食事のかかる時間などについて本人のペースに合わせて対応している。リビングで自由に過ごしていただいている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用者様の希望にそって訪問理容にて(カット、顔そり、パーマ)などを行っている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>スタッフが栄養の管理をしている。利用者様の好みを取り入れ、楽しんでいただけるようにしている。スタッフも一緒に食事し片付けもともに行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の好きな飲み物や、おやつなど、利用者様の好みを汲み取って日常的に支援している。自己管理できる利用者様はおやつを自室で楽しませている。	○	職員や入居者様の嗜好物を把握しており、飲み物についても好きなものを飲んでいただいている。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の間隔を把握し、トイレで排泄ができるように誘導支援している。誘導を拒否される方もいますが、職員を変えて気持ちよく排泄できるよう支援している。	○	トイレ誘導により、日中失禁回数を少なくするようにしている。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週に2回の入浴、ゆっくりと入浴していただけるように支援している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	屋寝が必要な方はベッドに誘導したり、ソファでくつろぎたい方には、ソファで休んでいただいている。	○	眠れない方に対しては、飲み物を飲んでもらったり、お話を聞いたりしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の特技、趣味に対応しながら、気分転換が図れるよう支援している。洗濯物たみ、茶碗拭き、散歩、歌などよろこびのある毎日を過ごせるよう支援している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の能力や、家族の希望に応じて自己管理を認めている。自己管理ができない場合でも、買い物の際には本人に財布を預け、支払いをしてもらうこともある。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は外での散歩、外気浴をしている。外出希望の方は個別に買い物や外出をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみてみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族の協力を得て、外出行事に取り組んでいる。白鳥見学、花見、外食などへ行っ て楽しまれている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話で家族の方と話していただくよう支援している。	○	毎月スタッフが手紙でご家族へ近況報告をしている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族が来訪した際はお茶を出し、ゆっくり過ごしていただける環境作りに努めている。その際、身体状況や近況報告をしている。	○	面会時間は決まっておらず、ご家族の都合の良い時間に訪問していただいている。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束しない介護ケアに取り組んでいる。拘束について再確認し言葉使いや態度、スタッフのレベルアップにも取り組んでいる。	○	言葉による拘束がないか、職員間で確認しあっている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中鍵はかけていない。外出願望の兆候が見られるときは、話を聞いたり、一緒に外出し安心感を持っていただいている。職員は玄関センサーで玄関での様子を把握しているが、フロアでの見守りを徹底している。また、料理をしながらさりげなく見守りをしている。	○	ご入居者様の表情や状態を観察し、出かけそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけ、散歩やドライブに出かけたりして対応している。
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者様の様子・所在を確認し、スタッフ間で連携を取りながら安全を確認している。	○	夜間帯は2時間ごとに巡回して、優先順位を考慮し、職員の居場所を決めいつでも対応できるようにしている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物については危険を避けるため、保管場所を決めている。異食の可能性のある入居者については、物の置き場所に注意している。場所を変えたり、使用する時にさりげなく置いたりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	もし事故があった場合は、事故報告書・ひやりハット報告書を提出、再発防止に努めている。また本部からの指導もある。	○	緊急時に備えてイメージトレーニングをしていき事故防止に取り組んでいきたい。
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	各入居者のなりうるおそれのある急変事例、対応は計画作成に記載されている。事故発生時の連絡マニュアルを作成している。初期対応の訓練を定期的に行っていない。	○	応急手当講習会に職員を参加させて職員が対応できるようにしていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	冬場、入居者の窓下通路の確保。定期的にホームの様子を町内に広報している。消火器の使い方などの訓練を十分に実施できていない。	○	運営推進会議で町内会長に災害時、近隣者の協力が得られるようお願いしたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	毎月スタッフが担当入居者の日常生活・リスクに関して手紙を書いて送っている。3ヶ月置きに計画作成書を家族の方に説明・理解を得ていただけるよう話をしている。	○	転倒の危険のある方についても、そのリスクをご家族に説明・対応をご家族と相談し、了承を得るようにしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状況を把握、毎日のバイタル測定を行い異常があれば管理者に連絡、訪問診療医師にも報告し指示を仰ぐ。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は服薬の目的を理解し、薬の説明書も個人のファイルにありいつでも調べられるようにしている。薬が変更された時は全職員が把握できるように、連絡ノートに記載している。	○	誤薬をしない為に確認を徹底している。薬を手にとった時確認、飲ませる時には薬の袋に書かれている名前を確認する。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便3日無い入居者には、朝牛乳を摂取してもらうようにしている。歩行できない方、座っている事が多い方に足踏み運動・施設外に散歩・腹部マッサージを行い、排便を促している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨きを見守り、また舌ブラシ・歯間ブラシが必要な方はしている。就寝前は義歯の洗浄を行いポリドントに浸けている。	○	職員に口腔ケアの重要性について研修し理解してもらうように取り組んでいきたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	職員がカロリーや栄養バランスに配慮している。飲水量や食事摂取量のチェック、1日1200ml以上の飲水を促している。	○	嚥下状態により刻みにしたり、食べやすい状態に工夫し食べて頂いている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防対応として、入居者様・スタッフ全員が予防接種を受けている。職員・家族様も手洗いうがいを行っている。ホーム内清掃(手摺り・トイレ・洗面所・ドア)を塩素系漂白剤で消毒を行っている。又ペーパータオルを使用している。	○	特にインフルエンザやノロウイルスの流行期間はマニュアルどおりに実施されているか、感染委員よりチェック・指導がある。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食後、布巾・まな板・包丁などの消毒を行っている。食材は毎日買い物に行き、新鮮な物を買って食品の衛生管理に努めている。冷蔵庫・冷蔵庫内の食品の賞味期限の点検と掃除もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	家庭的な雰囲気に心掛け、明るく清潔を保っている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング居室は自然採光が入りいつも明るい季節に合った装飾を行い、四季の変化を楽しんでいただいている。家庭的な雰囲気のある共用空間づくりを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓テーブル、ソファがあり自分の好きな場所で気の合った者同士が談笑したり、休まれたり思い思いに過ごせるように工夫している。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れた生活用品・タンス・仏壇などが持ち込まれている。写真など思い出の品物も持ち込まれ、落ち着いて過ごせるように配慮している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	利用者の状況に合わせて温度・湿度も調整している。	○	よどんだ空気にならないように空気の入替えを行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	段差をなくし、手摺りが設置され車椅子も自分で自走出来るように環境が整えられている。トイレや浴室にも手摺りを設置し安全に配慮している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	リビングに時計を設置している。自分のお部屋がわかるよう表札に写真を貼っている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇・畑に行き作物やお花など見たり楽しませている。又天気の良い日はベンチで外気欲などして生まれ、心の安らぎを感じられるようなスペースとして活かされている。	○	畑に行き、野菜の収穫をし楽しめる環境がある。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ◎②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ◎①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ◎②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ◎②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ◎①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ◎③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p>	<p>①大いに増えている ◎②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p>	<p>◎①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p>	<p>①ほぼ全ての利用者が ◎②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p>	<p>◎①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)